

社会福祉法人 上越老人福祉協会

平成30年度 事業実施状況報告

役員会説明資料

(概要版)

目次

1. 全体評価	P 1
(1) 経営改善取組の状況	
(2) 法人管理部	
2. 各事業の報告	
(1) いなほ園グループ	P 5
(2) 新光園グループ	9
(3) 高田の郷グループ	1 1
資料2 (利用率等の状況)	

1. 全体評価

(1) 経営改善取り組み状況

①法人経営改善計画実施状況

経営改善の取り組みにより収支差額がプラスに転じた。法人全体の年間収益は、各事業所合計で前年比 15,873,167 円の増収があったが、新光園地域包括支援センターの廃止、いなほ園ショートの休止等の影響もあり前年比 7,582,767 円減収となった。しかし、夏季賞与 0.2 カ月分削減、福利厚生制度である上越市勤労者福祉サービスセンター退会、高田の郷建設資金借入金借り換え等により改善した。当期資金収支差額は 39,655,823 円（前年比 74,721,240 円）であった。事業活動計算書も 70,478,511 円（前年比 82,369,171 円）のプラス決算であった。

②各事業所経営改善状況

特養・老健の平均利用率は、いなほ園 98.3%、新光園 98.8%、高田の郷 97.6% でありいずれも好調であった。サービス活動増減額は、それぞれ 30,384 千円（前年比 3,006 千円）、25,214 千円（前年比 22,959 千円）、46,116 千円（前年比 13,785 千円）であった。みずほ園は 98.8%、3,338 千円（前年比 975 千円）であった。

施設名	利用率	要介護度	サービス増減差額	前年比
いなほ園	98.3	3.9	30,384 千円	3,006 千円
新光園	98.8	4.0	25,214 千円	22,959 千円
高田の郷	97.6	2.9	46,116 千円	13,785 千円
みずほ園	98.8	4.0	3,338 千円	975 千円

通所、通所リハの平均利用率は、いなほ園 79.2%、新光園 83.9%、高田の郷 80.5% であった。サービス活動増減差額は、それぞれ△199 千円（前年比△241 千円）、8,744 千円（前年比△7,114 千円）、5,787 千円（前年比△1,855 千円）であったが、介護報酬の大幅なダウンが影響している。

施設名	利用率	要介護度	サービス増減差額	前年比
いなほ園	79.2	2.1	△199 千円	△241 千円
新光園	83.9	1.9	8,744 千円	△7,114 千円
高田の郷	80.5	1.9	5,787 千円	△1,855 千円

ショートステイは、いなほ園の平均利用率 91.7%、サービス活動増減差額は 3,185 千円（11 月末休止）、新光園は 91.2%、6 月 30 日まで△207 千円であり 7 月以降特養へ転換した。

施設名	平均利用率	サービス増減差額	前年比
いなほ園	91.7	3,185 千円	—
新光園	91.2	△207 千円	—

グループホームのサービス活動増減差額は敬寿が 1,242 千円前年比を下回ったが、なかよし寿の家 4,143 千円、宝寿の家 1,777 千円、百寿の家 4,107 千円それぞれ前年比を上回った。本町楽寿の家は前年比 8,476 千円と大きく増額した。光寿の家は前年度の人員基準誤認の影響が残ったが後半盛り返しサービス活動増減差額△4,540 千円（前年比 8,428 千円）であった。

軽費老人ホーム等、その他の事業も堅調に推移した。

施設名	利用率	要介護度	サービス増減差額	前年比
敬寿	98.3	2.4	△1,961 千円	△1,242 千円
なかよし寿の家	99.3	2.2	5,464 千円	4,143 千円
宝寿の家	98.2	2.2	209 千円	1,777 千円
百寿の家	98.0	2.0	7,005 千円	4,107 千円

③日本経営プロジェクト進捗状況

4月に管理監督職によるワークショップを開催し、現状分析結果について共有し今後の方向性について討議、参加者の意見を今後の取り組みに活かしていくことを確認した。その後、組織・人事制度の全体像と取り組みについて、月2回の会議を重ね詳細に検討を重ねた。3月に改革案として取りまとめたが、今後更に検討を進めていく。

④各事業の見直し

- ・食事サービス業務委託（千寿園・ケアハウス上越）

石本商事株式会社と給食業務を委託契約締結後、平成30年4月1日より業務移行し法人管理栄養士と十分な連携をとりながら給食を提供している。人材管理に関わる労力削減効果が出ている。

- ・新光園短期入所床の特養転換・いなほ園短期入所床の休止

上越市第5期介護保険事業計画の積み残しであった、新光園短期入所床4床の特養転換について認可があり7月に転換した。また、いなほ園短期入所床20床を11月30日付で休止した。

⑤法人創立 45 周年記念事業

事業内容	実施日	付記
法人創立 45 周年記念式典	平成 30 年 11 月 19 日 (月)	永年勤続表彰、記念コンサート他
法人創立 45 周年記念シンポジウム	平成 31 年 2 月 18 日(月)	「身元保証人がいない高齢者をどう支えるか」アートホテル 230 名参加
シンポジウム記録誌	平成 31 年 3 月 28 日発刊	シンポジウムの概要
法人広報紙「いなほシニアネット」45 周年記念号	平成 31 年 3 月 28 日発行	過去 5 年間の事業を総括

⑥その他

人材確保のため各学校訪問・各種就職相談会に参加するとともに、上越保健医療福祉専門学校との連携により、1 DAY ワークショップ及び福祉施設見学バスツアーを開催した。また、地域貢献事業の一環として上越まつり民謡流し、「和・道」医療福祉グループ主催の各行事に参加した。

(2) 法人管理部会取り組み状況

①総務部

新潟県内専門学校・大学への求人活動、就職相談会、1 DAY ワークショップの開催等の求人活動、職種別代表者会議の取りまとめ、雇用 5 年以上経過した者の無期雇用契約への転換、働き方改革関連法案改正、ストレスチェックなど職場環境改善への取り組み、利用者契約書の見直しなど実施した。職員研修の概要は以下のとおりである。

研修名	実施日	概 要
ステップアップ研修		
監督職研修	6 月 1 日	「打たれ強く生きる」事務局長 45 名
中堅職員研修 I	6 月 4、19 日	「接遇と信頼関係の構築」金子園長 73 名
中堅職員研修 II	7 月 10、17 日	「日本のこころ、おもてなし」村松園長 91 名
中堅職員研修 III	9 月 3、18 日	「福祉の接遇に活かす交流分析」経田博子氏 78 名
スキルアップ研修		
認知症研修	10 月 30、11 月 13、17 日	「パーソンセンタードケアと権利擁護」矢崎センター長 214 名

②事業部

介護保険制度改正に対応し、身体拘束等適正化に向けた体制整備及び介護報酬改定による収入予想の確認作業を定期的に行った。その他、事業部担当の研修・会議は以下のとおりである。

事業名	実施日	概要
新潟県認知症研修事業	6月5日～8月6日、8月14日～10月12日	認知症介護実践者研修第1回目 49名 第2回目 45名
	9月27・28日	小規模多機能型サービス等計画担当者研修 28名
	12月6日～7日	管理者研修 20名
	11月16日	基礎研修 24名
	H31年3月18日	認知症介護アドバンス研修 14名
新潟市認知症介護研修	H31年3月20日～21日	小規模多機能型サービス等計画担当者研修 32名
喀痰吸引研修	7月18日～8月24日	第1回目 33名
	11月21日～12月5日	第2回目 30名
法人苦情解決委員会	5月7日	5件の苦情について第三者委員と担当職員にて意見交換
事業者代表者会議	毎月	利用率向上に向けた現状確認。事業所間連携を協議し、法人経営に反映。

③情報部

新潟県が推進する介護人材確保推進事業であるトリプルアップ宣言（職員のスキルアップ、キャリアアップ、イメージアップ）、介護事業所動画作成支援事業に申請し、介護職場のイメージアップに関わる取り組みを進め、YouTube投稿及びDVDを作成し多方面にPRした。

求人サイトのリクナビダイレクトに登録し、介護・リハビリ・看護職員に対応、総務部と連携し求人用リーフレットを作成した。

ホームページに掲載しているクックパッド（料理レシピ検索サイト）は、週当たりの検索数が約2,500件と飛躍的に伸び法人食事部門のPRにつながっている。

④財務部

報酬改定に伴い経営改善計画の収入目標の見直しを行った。経営改善のため経費削減の取り組みを継続し、電気料や紙おむつの検討を行った。また、報酬改定や29年度決算の状況を踏まえ、大規模修繕、設備更新の資金計画の見直しを行い、今後の各事業所の予算作成に活用していく。

2. 各事業（グループ）の報告

(1) いなほ園グループ事業実施状況

特 養	<p>(利用率) 98.3% (前年) 97.9%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退所～入所までの空床期間の圧縮(402日→203日)と短期入所の効果的活用により前年比0.4%改善した。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 30,384千円(昨年比3,006千円) ・介護報酬+改定、要介護度(3.8→3.9)、利用率向上により、収入は12,868千円増加した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いなほ園グループ内事業の管理体制(園長と他管理者の権限と役割)について見直し、組織の協力体制を強化した。 ・ケア体制について、人員を縮小した上で効率的なサービスをおこなえるよう日課や提供体制を変更した。 ・(12月)介護負担軽減のため移動用介護ロボットを導入した。
通 所	<p>(利用率) 79.2% (前年) 80.9%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規利用は26名あったが体調不良者も多く、予定からの実績で10%減の月もあり利用率は△1.7%となる。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 △199千円(昨年比△241千円) ・介護報酬の大幅なダウンと利用率低下、介護度(2.4→2.1)により、収入は△4,408千円減少。 ・支出は人員体制の見直しもあり△3,110千円となった。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月～個別リハ加算の算定を始めたが関係職員の連携不足もあり、年度末時点で66%の算定となった。
短 期 入 所	<p>(利用率) 91.7% (前年) 84.4%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人当たりの利用日数が前年比2.3日増加したことでキャンセル時に早期対応をおこなったため7.3%改善。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 3,185千円(11月末までの営業) <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月の事業休止に対して、居宅及び関係機関と連携を取りながら(意見等もなく)遺漏なく他機関への移行をおこなえた。

<p>み の り の 家</p>	<p>(利用率) 100% (前年) 100%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退去者 3 名あるが月内に補充をおこない、月初 100%を維持することができた。現在待機者は 19 名、内みなのりのみの申込者は 11 名、目標は達成。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 1,076 千円 (昨年比 2,074 千円) ・施設長交代と職員切替 (正職→パート) により人件費 2,262 千円減少。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師による健康相談会、個別支援計画の作成、施設内での脳トレや健康体操、更には希望者のボランティア活動の支援により健康維持と社会交流につなげた。
<p>米 岡 の 郷</p>	<p>【みずほ園】 (利用率) 98.8% (前年) 98.1%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8 月より空床時のショートステイ活用と病院や関係機関への広報活動による申込者の増加もあり昨年比で 0.8%改善した。今後はさらに待機者の意向確認を細目におこない、空床発生時のスムーズな入所につなげる。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 3,338 千円 (昨年比 975 千円) ・介護報酬+改定、要介護度 (3.9→4.0)、利用率向上により、収入は 1,835 千円増加した。 ・費用は欠員補充による人件費増などもあり 820 千円となる。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の新潟県 (上越市) の実地指導の指摘事項 (避難訓練の実施や法令・基準の順守) について遺漏なくおこなう。また再発防止に向け母体との情報共有や職員会議を通じて指示を徹底した。 <p>【光寿の家】 (利用率) 85.8% (前年) 73.0%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11 月の管理者交代に伴い、新たな経営改善計画を基に利用者確保に取り組んだ結果、12 月以降は平均 90%超 (最大契約数 24 名/25 名) まで改善。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 △4,540 千円 (昨年比 8,426 千円) ・収入は 12 月以降の経営改善の取組により、昨年比 10,311 千円増加。 ・但し、昨年度からの人員基準の誤認による減算、(4,5 月分) △1,870 千円の影響あり。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県 (上越市) の実地指導の指摘事項への対応は、みずほ園同様。 ・地域の窓口となって、相互協力や交流活動をおこなった。

な か よ し 寿 の 家	<p>(利用率) 99.3% (前年) 97.8%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人 4 施設の共同待機者管理の効果により空床期間が短縮、1.5%改善。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 5,464 千円 (昨年比 4,143 千円) ・利用率向上、要介護 (1.8→2.1) により 2,274 千円増収となる。 ・費用は職員の欠員と賞与減額のため△2,200 千円となった。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の介護度 up に伴い介護量が増加、それに伴い医療ニーズや受診数が増えサービス体制の見直しに苦慮した。
宝 寿 の 家	<p>(利用率) 98.2% (前年) 98.2%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包括、居宅等関係機関への定期情報を発信し、効果により前年同様。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 209 千円 (1,777 千円) ・収入は介護度 (2.3→2.2) による 200 千円減少もあったが、支出は職員の欠員と賞与減額のため△1,400 千円となった。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会参加による防災訓練の実施、地域貢献活動として地元中学生の受入や老人会 20 名の奉仕活動、また施設の一角を地域の休憩所として提供するなど、様々な交流活動をおこない関係を深めた。

(2) 新光園グループ事業実施状況

<p>特 養</p>	<p>(利用率) 98.8% (前年) 98.3%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 空床ベッドの利用は、ケアハウス上越と連携し状態不安定な入居者を速やかに受入、安定的に活用できた(延べ147日/前年62日) <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> サービス活動増減差額 25,214千円(前年比22,959千円) 介護度4.1→4.0 報酬改定、利用率、7月以降の増床分で大きく増収につながった。 会議等運営方法を見直し、超過勤務については前年比26%削減した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護力向上に継続的に取り組む。下剤使用率が約20%減少したほか、殆どの項目で改善がみられ、自立支援につながる確実な一歩となった。 職員のニーズ調査から離床アシスト介護ロボットを導入した。
<p>通 所</p>	<p>(利用率) 83.9% (前年) 82.6%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規27名、終了33名、平均キャンセル率8.9%(1日平均2.4人)。 居宅等への細かな情報提供と登録者100名以上、キャンセルを見込んだうえでの日々の登録30名+αを目標に取組んだ結果改善した。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> サービス活動増減差額 8,744千円(前年比-7,114千円) 介護度1.9→1.9 報酬改定減のダメージは利用率の増加で補い、介護保険収益は△1,700千円にとどめた。 職員の異動に伴う人件費増が影響した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員異動で個別機能訓練加算Ⅱの算定ができなくなった。 認知症研修修了者を積極的に養成し、認知症加算の算定を開始した。
<p>短 期 入 所</p>	<p>(利用率) 91.2% (前年) 81.0%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月特養への転換を踏まえ、本入所意向の利用者を中心に長期利用を促進したため改善した。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> サービス活動増減差額 -207千円(前年比1,785千円) <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 本入所につながるケアマネジメントを行い、スムーズな入所切替ができた。

<p>G H 百 寿</p>	<p>(利用率) 98.0% (前年) 94.9%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退所 5 件発生後、入所までの空床期間を延べ 35 日に短縮した。主要因は入所に至るマネジメントの手際が改善（施設長と計画作成担当の連携調整）されたことである。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 7,005 千円（前年比 4,107 千円） ・介護度 1.8→2.0 ・利用率が改善し収益増となった。欠員の関係により人件費で△3,000 千円であったが、人材紹介を利用し補充したため手数料が増加した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つる棟ではインフルエンザ初発者の対応に苦慮した。職員の自衛策が徹底できず職員 4 名の罹患に至った。利用者は予防薬の投与で感染拡大を防ぐことができた。
<p>ケ ア ハ ウ ス 上 越</p>	<p>(利用率) 98.8% (前年) 97.6%</p> <p>① 利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年 7～8 名程度の入居者が入替るところ、退所 2 件と少なかった。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 688 千円（前年比 696 千円） ・食事委託化に伴う 1 食単位での食費減額が、前年比 469 千円増の延べ 1,343 千円に上り収益に影響した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事委託化による質の低下を防ぐため、摂食状況の要観察と委託業者への情報共有を徹底した。 ・介護職員の増員に伴い居室担当制を設け日常の健康把握に活かした。入所継続に反映することができた。

(3) 高田の郷グループ事業実施状況

<p>入所 短期含む</p>	<p>(利用率) 97.6% (前年) 96.3%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の蔓延がなく、入退所が前年度比で20件少なかった。 ・空床ショートステイの活用で利用率は安定した。前年度比1.3%改善。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 46,116 千円 (前年比 13,785 千円) ・介護度は 2.9 (前年度 2.7) ・利用率の増加とリハビリ関係の新たな加算算定により収入増となった。 ・人件費、修繕費、除雪費等の減少に加え、レンタル物品の見直しにより支出が減少した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス管理委員会が議論の場となり、サービス全般の纏め役として機能した。新たな加算の算定、対応食種の拡大、看取りに準じたサービスの提供が行えた。 ・ベッド刷新やレンタル物品の整理を行い、生活環境の適正化が進められた。
<p>通所 リハ</p>	<p>(利用率) 80.5% (前年) 81.5%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規利用は 28 名あったが、終了者も 23 名と多く、予定からの実績で 10%減の月もあり利用率は前年度比△1.0%となる。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 5,787 千円 (前年比△1,855 千円) ・介護度は 1.9 (前年度 2.0) ・利用率の減と報酬改定による減額分が収入減の要因。後期はサービス提供体制を変更し、減額を最小限に留めた。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務日課や業務管理体制を大幅に見直し、サービス提供時間の延長や新たな加算の算定に取組んだ。 ・生活リハからさらに派生し、より生活場面を意識した外出リハビリが実施できた。
<p>敬寿</p>	<p>(利用率) 98.3% (前年) 97.8%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入退所それぞれ 5 件は前年度並み。隔月で関係機関に情報発信し、待機者を確保。退所から入所までの期間を短縮し、前年度比 0.5%改善。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額△1,961 千円 (前年比△1,242 千円) ・介護度は 2.4 (前年度 2.2)

	<ul style="list-style-type: none"> ・利用率の増加と介護度の上昇で収入は増加した。しかし欠員補充による人件費の増加分が上回った。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢と重度化で車椅子対応者が増加した。日々の生活の中に外出の機会を設けるなど工夫し、気分転換を図った。 ・食事の提供に当たり、メニューの刷新や効率化が成された。
本町楽寿	<p>(利用率) 96.3% (前年) 93.4%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規問合せに対し、職員体制が整わずに機会ロスを生じた。基準該当障がいサービスの対象者が少なく、利用率は前年度比△2.9%となる。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 5,926 千円 (前年比 8,476 千円) ・介護度は 2.7 (前年度 2.5) <ul style="list-style-type: none"> ・利用率が減少するも、介護度の上昇により収入は増加した。 ・前期の欠員により人件費が減少。また清掃業務の委託を終了したことにより、支出が大幅に減少した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状態変化・環境変化にサービスを適合させ、臨機応変な対応ができた。 ・地域公開講座を開催し、多くの地域住民に参加していただいた。地域における福祉拠点としての役割を模索した1年となった。 (認知症講座 30 名、口腔ケア講座 15 名)
千寿園	<p>(利用率) 98.3% (前年) 97.7%</p> <p>①利用率状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退所支援が計画的に進められた。退所から入所までの期間を短縮し、前年度比 0.6%改善。 <p>②収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額 3,081 千円 (前年比△937 千円) ・老朽化による修繕費の増加の他、入浴の機会を確保するため入浴日(曜日)を増やしたことにより、光熱水費が増加した。 <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画の作成を体系化するとともに、ケース検討会議を定例化した。少人数の活動を増やし、健康維持増進に取り組んだ。 ・食事提供体制を委託とし、後期には質・量ともに満足度が高まる内容となった。

居宅	<p>①【給付管理数】759件（前年）1,227件</p> <p>②（予防件数）173件（前年）132件</p> <p>③収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額188千円（前年比460千円） ・年度途中の異動に伴う人件費の減とケース数の減少による収入の減。 <p>④実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度途中の異動で人員減となり、介護給付件数は目標に届かず。 ・利用者は体調的に季節的な波があり、冬季は体調不良で、調整が必要な場面が多かった。都度対応し、在宅生活の継続に努めた。
地域包括	<p>①実態把握 329件 ②予防給付 888件(内 委託 486件)</p> <p>③総合事業 785件(内 委託 257件)</p> <p>④収支差額状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス活動増減差額3,502千円（前年比46千円） ・地区割りの変更に伴い、予防プラン作成件数に上下あるも収支には影響なし。 <p>⑤実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包括再編に伴う大きな混乱はなく、計画的に業務を行うことができた。 ・地域のすこやかサロンに積極的に赴き、参加している地域住民の健康相談や介護予防、健康に関する講話を行えた。 ・権利擁護に関する相談が多く、支援困難・虐待ケースや成年後見制度の相談等、丁寧な対応が必要とされた。 ・介護予防ケアマネジメントについては、自立支援・重症化予防の視点を重視した。

